

所報 研究所だより

教育・しまんと

令和3年度 NO. 7	発行 四万十市教育研究所
	四万十市田野川乙 1240 番地 Tel/Fax (0880) 32-1020 ふれあい学級(0880) 32-1022

★「サークル活動に関する新設希望調査」から

11月5日を〆切にしていた標記の件につきまして、いただいたご意見を含めて、現段階でお応えできる範囲でお知らせいたします。

なお、来年度の方向性につきましては、来年2月の「運営委員会」で協議を行い、その結果を受けて最終報告したいと考えております。

【授業づくり講座等、サークル活動について】

サークルⅠ（教科研修）の活動を休止し、令和2年度及び3年度に試行期間として、市内で行われる研修会の中から希望する研修を選択し参加する。という取り組みに関しては、コロナの感染拡大の影響で中止や延期、参加対象者の縮小等、何かと厳しい状況は見られましたが、各校から多数の肯定的評価をいただきました。

来年度、授業づくり講座の実施状況や研究発表会等の開催が現段階では不透明ではありますが、継続の方向で進めていきたいと考えております。

①サークルⅠの再開を求める意見に対して

各種の研究大会や研修会を精選するためにサークルⅠの活動の役割を授業づくり講座等に移す方法で取り組んできました。結果として高評価をいただいております。来年度の講座等の実施状況にもよりますが、あわせて、中学校の再編を受けて、教員の定数も限られてくること等もあり、以前の形に戻すことは難しいのではないかと思います。

②サークル活動の位置付けを幡多管内に拡大できないかという意見に対して

本市で開催される授業づくり講座等において、教科によっては公開されない実態があり、希望する研修が受けられない。従って、他の市町村の講座及び研修会への参加もサークルⅠの代替研修として認めることはできないかというご意見もいただきました。

この件につきましては、サークルⅠの活動を現状の形に移行する際、位置づけとして「参加できる研修会等は、四万十市内で開催されるものに限

る」という確認を取っております。

これは、サークルの趣旨を尊重しての確認です。確かに「必ず一人一回以上の参加」という規定に関しては、厳しい実情が出てくることは想定されますが、位置づけの趣旨はご理解いただきたいと思っております。

【サークルⅡの活動について】

①会員数の多いサークル活動について

本年度のサークルⅡは、15の組織で活動を行っていただきました。その中には、60名を超える会員が所属するサークルがあり、組織総会の部会の中で、自主的に活動内容を分類して研修を行いました。

特に情報教育の「基礎」と「ICT管理」が顕著でした。各校からの夏季研修会の振り返りや運営委員会での協議を受けて、下記のようなご意見が提起されましたのでお知らせいたします。

②情報教育の基礎について

研修の中心的内容は「ワード・エクセルの操作・関数式の研修」等に限定して、基礎的内容を身に付けるとともにその応用的内容を深める形にしてはどうかという意見をいただきました。

③情報教育のICT管理について

ICT管理の「校務支援システム」中心の研修に関しては、事務職員さんの参加が多数を占めていたということもあり、来年度は、サークルとは別に年間何回か行われている「事務職部会」の中で研修していただけることになりました。

また、「GIGAスクール構想」や「プログラミング教育」にも焦点を当ててほしいという意見もあり参考にしたいと思っております。

さらに、運営委員会の中では、ICT管理の内容を小中に分けて「クロームブックを活用した授業実践の交流の場」にしてはどうかという意見もあり、情報教育に関しては、上記のような方向で検討することになるかもしれません。

【サークルⅡの予算について】

①講師料の増額について

講師料等を含めて現状の金額（1万円）では、運営が難しい。という声があることは承知してい

ますが、教育研究所の予算の総枠の中に組み込まれているものですので、増額は厳しい実態があります。可能であれば、複数のサークルによる合同の研修会を計画して開催すること等を視野に入れていただければと思います。

【サークルⅡの参加体制について】

①ひとつの部会「1校2名まで」の設定に関して

限られたサークルではありますが、校内の全教職員の参加や1校から複数参加している学校があって、偏りが見られるので「1校2名まで」という制限を設けてはどうかという意見がありました。

確かにそういう実情があることは認識しております。

ただ、サークルの本来の目的は、個人の意見を尊重し任意に参加を募るものですので、制限を設けることは現実問題として課題が出てくるのではないかと思います。

また、校内の全教職員が参加している実情としては、その学校の「校内研のテーマ」や「研究指定」等に関係している場合があるのではないかと思います。

この件につきましては、各校において、来年度当初の希望調査のアンケートの際に共通理解を図っていただければと思います。

いただいたご意見を同じような内容であればまとめさせていただき、現段階での状況として上記の通り報告させていただきました。

今後、「サークル連絡協議会」及び「運営委員会」等で協議を重ね、次年度へ向けての方向性を年度内にはお示しできるようにしたいと考えています。

今後の状況によっては、今回の内容と異なる結果になることも想定されます。その都度適宜お知らせできるように努めてまいります。